

●第2回「ファザー・オブ・ザ・イヤ—inみえ」大賞受賞者一覧

応募部門	受賞者	住所	推薦者	育児対象	受賞者取組概要
(1)“我が家の育児男子”部門 大賞	大塚 裕介さん (おおつか ゆうすけ)	菟野町	大塚 麻衣さん(妻)	子(1歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚家の家訓は「早寝・早起き・夕ご飯」。夜はぐっすり眠って、朝から元気に活動すること。そして、夕ご飯はみんなで一緒にしっかり食べることを大切にしていた。 ・妻の2人目の子を妊娠したのをきっかけに、1時間の早出勤務を始め、朝は朝食を準備してから出勤し、夕方5時には帰宅、夕食作り、お風呂に洗濯と大活躍している。 ・はさまや電子レンジをうまく使って手早く朝ご飯を用意し、夕食は18時に家族そろって「いただきます」。楽しい夕食の後でも余裕を持って寝るまでの時間を過ごすことができている。 ・長男との距離も大きく縮まり、子どもの生活リズムに合わせることで、子どもと一緒に過ごす時間が増えるだけでなく、大人の負担も減っていくことを発見。夫の育児参加で余裕が生まれたことで、妻自身の精神的負担も大きく減り、その結果家族で笑う時間も今まで以上に増えた。
(1)“我が家の育児男子”部門 大賞	小西 隆緒さん (こにし たかお)	伊勢市	本人(自薦) 小西 めぐみさん(妻)	子(1歳、15歳、16歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在15歳と16歳の子を持つ妻とは再婚。2014年4月に三男が誕生したのを機に、「俺はイクメンになる！(妻に)仕事も頑張って欲しいから育児はもちろんのこと家事も出来る限り協力する」と宣言。 ・妻が産後2か月で仕事復帰したタイミングで、「専業主夫」になることを決意し、3ヶ月の育児休暇を取得。 ・初めての専業主夫の世界に戸惑い、社会に関われない疎外感や子守りを続ける事のストレスもあり、仕事から帰ってくる妻に八つ当たりをしてしまったこともあるが、徐々に慣れ、離乳食教室に赤ちゃんを抱えて出かける余裕もでき、ミルク、離乳食、おむつかえ、絵本読み等、妻ともほぼ対等に張り合える、イクメンパパにまで成長。 ・三男が1歳4ヶ月になった今でも育児に仕事に家事に奮闘しており、「どちらが家事育児を担当する」ということではなく、「できる方ができるところをやる」という方針のもと、夫婦二人三脚で協力しながら、家族みんなが平和に過ごすことを楽しんでいる。
(1)“我が家の育児男子”部門 大賞	清水 正行さん (しみず まさゆき)	四日市市	佐藤 理絵さん(孫)	ひ孫(3歳、5歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひ孫のために遊具を手作りで作って遊んでいる。ひ孫たちが特に気に入っているのが鉄棒で、公園の鉄棒は少し高く作られていたので、息子たちの成長に合わせて低めに調節して作ってくれた。 ・他にも、竹馬、サッカーゴール、砂場などを作り、庭を公園のような空間にし、推薦者(孫)が忙しかったり、疲れているときでも庭の遊具で遊んでくれるようになり、その間に家事をしたり、ゆっくり過ごすことができ、大変助かっている。 ・また、子ども達が道路へ飛び出さないように柵を作ったり、危険な場所にはネットを張ってくれたりといった事故防止対策や、一緒に虫採りや植物を育てたりし、虫が死んだり、植物が枯れていくときには命の大切さも教えている。
(2)“私の街の育児男子応援団”部門 大賞	ハハスマイル四日市	四日市市	佐藤 保幸さん(同会メンバー)	自分の子ども・メンバーの子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市主催の「父親の子育てマスター養成講座」の修了生有志が立ち上げたグループ。 ・「父親が子育てに楽しみながらかかわることで父親も子ども母親も笑顔になり子育てしやすい地域を目指す！」をモットーに2014年1月から活動中。 ・2014年に開催された「ファザーリング全国フォーラムinみえ」では、四日市市と協働し、分科会「ハハのスマイル会議！」を開催したほか、パパ向け講座や父親と子どもの料理教室、家族イベントや絵本読み聞かせなどを実施している。
(3)“イクボスさん、いらっしゃい！”部門 大賞	株式会社山下組代表取締役社長 山下 信康さん (やました のぶやす)	志摩市	本人(自薦)		<ul style="list-style-type: none"> ・創業1916年の建設会社の社長。社内で活躍する女性監督や女性役員の、男性に負けない仕事ぶりや仕事と育児の両立ぶり等々を目の当たりにし、男は子育てと言っても、やはりその大半が女性の手にゆだねられているという事実と労働力としての女性の素晴らしさを知り、子育てをする女性(男性も)を応援しなければ、会社の未来は無いと考えるようになった。 ・事務員の募集をした際に応募してきた女性が、当初は「子供の保育所の時間内でパートで働ければ。」と考えていたが、「時間は子育てに合わせて出勤すればいい。だから正社員として働いて、働くという事に意味を持たせ、意義を見出してほしい。」と話し、正社員になってもらった。今も、この女性社員は子供を保育所に送ってからの出勤しており、お迎えがあるので4時には退社している。 ・女性社員全てに対し、「女性として生まれたからには結婚もすべきだと思う。出産も経験してほしい。子育てで苦労も経験してもらいたい、その為に会社として出来ることは何でもしてあげるから、是非、山下組で定年退職を迎えて頂きたい。」と話している。
(4)“仕事も育児もこうして両立”部門 大賞	イケダアクト株式会社勤務 奥谷 真さん (おくたに まこと)	松阪市	田中 基子さん(同僚)	子(0歳、2歳、4歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・松阪から鈴鹿へ毎日通勤。妻の三人目の妊娠が判明した時、「定時退社宣言」。 ・会社の大きな戦力で、多忙な業務だったが、仕事の効率化、短期集中、周囲との協力を実現。変わらず社内外での評価が高く、周囲も協力的。 ・遠距離通勤なので定時退社して7時前に帰宅後は、上の子二人の食事、入浴、寝かしつけの世話をし、子ども達も喜んでいる。 ・入社時から見守ってきた同僚が、「ベスト仕事人はベスト仲間、だからベストファザー間違いない。相変わらず定時退社を実行しており、彼を是非とも推薦したい」という思いから応募。

●第2回「ファザー・オブ・ザ・イヤ—inみえ」部門賞受賞者一覧

応募部門	受賞者	住所	推薦者	育児対象のお子さんについて	推薦文(一部抜粋)
(1)“我が家の育児男子”部門 部門賞	松浦さん (まつうら)	桑名市	妻	子(2歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、里子を受け入れ、当初は子どもとの間に少し距離が生じ、妻との間にもいつか波風が立つことも。その度にどんなふう子育てをするのか、夫婦で何度も話し、その甲斐があったか、夫婦間で波風が立つことも少なくなり、いつのまにか子どもの距離も縮まった。 ・休日、子どもと過ごすのを主に担当し、子どもとしっかり体を使って遊んでいる。特に子どもは『高い高い』がお気に入り、妻から見るとヒヤヒヤものですが、当の子どもはとっても楽しそう。また、妻が苦手な立体的な遊び(ブロックで怪獣や建物を作ったり)をしたり、好きな車のカタログを二人で見ている。時には子育て支援センターや公園へ二人で出かけることも。 ・子どもと出かける時には「少しはゆっくりしたら。」と妻に声をかけたり、妻が少しイライラしている時には、そっと子どもを別室へ遊びに連れ出すなどの気遣いも。 ・実は子育てだけでなく家事にも積極的に関わっており、食器洗い・洗濯・掃除機かけ・床拭き・お風呂掃除・ゴミ出し・ペットの世話・草むしり・・・料理以外の家事ならんどこい。それはもうお手伝いレベルではなく、妻も脱帽してしまう腕前。
(1)“我が家の育児男子”部門 部門賞	森 宏記さん (もり ひろき)	津市	森 由佳さん(妻)	子(0歳)	<ul style="list-style-type: none"> ・得意な育児法は“オリジナルソング♪”。赤ちゃんの時なかなか寝ない息子に作った子守唄で、パパの歌声で眠って欲しい、そうすればママもゆっくり眠れるから。そんな優しさから生まれた1曲がきっかけ。 ・今ではおむつ替えの歌、お風呂の歌、お散歩の歌・・・。仕事で忙しく妻に比べて接することの少ない中、自分でもご機嫌になって欲しい、歌で生活リズムを覚えてほしいと作った歌がたくさん。その中でも最近の息子のお気に入りまんまの歌♪「(歌詞)パクパクゆうくん、おくちあーんして ほくはもぐもぐ、パクパクゆうくん、パパももぐもぐママももぐもぐ、みんなでもぐもぐあーおいちい♪」 ・育児で家事が出来ず、散らかった部屋に帰宅しても、「今日はたくさん遊べた証だね。あとはやっておくから一緒に寝てあげて。」夕食が作れず、お惣菜を並べても、「一緒にお散歩して買ってきてくれてありがとう」と妻をフォローしている。
(2)“私の街の育児男子応援団”部門 部門賞	鈴鹿市立明生小学校 おやじの会	鈴鹿市	江藤 康智さん(同会代表)	小学校区に住む子ども達(自分の子どもも含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・明生小学校の保護者のお父さん方や卒業生のOBやOGなどが自主的に参加して「子どもたちと楽しく、そして時には厳しく」ふれあっていくことを目的としたボランティアグループ。現在20名程の登録者があり、土日を中心に活動中。 ・主な活動は、避難所生活体験会という小学校体育館にダンボールハウスを子ども達と作り、宿泊している。その宿泊の夜には、学校内肝試し(お化けはおやじがします)をしたりしてお楽しみ行事もある。またTV番組にもあります「逃走中」というゲームも実施。 ・夏休みには、着衣水泳体験会も開催し、実際に服を着たままプールに入り、着衣の大変さや万一のために背浮の練習なども実施。 ・6年生が卒業するときこのおやじの会の主旨に賛同し、中学校になってもおやじの会を手伝いたいという子どもには「おやじの会サポーター」となってもらい、おやじの会の運営と一緒に手伝ってもらっている。
(3)“イクボスさん、いらっしゃい!”部門 部門賞	一般財団法人食品分 析開発センター SUNATEC勤務 服部 聡司さん (はっとり さとし)	名古屋 市(四日市 市勤務)	前田 明子さん(同僚)		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てを卒業された先輩ママがほとんどのチームで、仕事と家庭生活をより充実した日にするために、日々奮闘しているイクボス。 ・チームメンバーの娘さんがご出産され、育児休業ならぬ'ばあば休暇'を1カ月取得するため、メンバーへの説明、人員の調整等を行い、室長自ら現場へ入ることにより乗り越えた。 ・休暇を取得する職員は、現場を切り盛りしてくれている主軸のメンバーであったため、他のメンバーの心配も大きかったが、そのような不安も事前にメンバー全員と仕事の段取り等について、じっくり話し合い、メンバー全員で情報を共有するように道を作ったことで、メンバーの不安も払拭され、休暇をとる職員も安心して休みを取ることができ、残りの職員も安心して仕事ができる環境になった。 ・このような、新しいかたち'ばあば休暇'の取り組みができたことで、今後も同様の事例が発生した場合に対応できる成功モデルを作ることができた。